




全国財務局長会議関連(平成29年8月1日開催)

地域の特徴的な動き

- I. 最近の九州財務局管内の経済情勢
- II. 管内食料品製造業の特徴的な動向について
- III. 平成28年(2016年)熊本地震からの回復の状況について







平成29年8月
九州財務局

I. 最近の九州財務局管内の経済情勢





	前回(29年4月判断)	今回(29年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	平成28年(2016年)熊本地震の影響が一部に残るものの、回復しつつある	回復しつつある		個人消費は平成28年(2016年)熊本地震からの復旧需要の継続等を背景に回復しつつあるほか、住宅建設も緩やかに回復しつつある。生産活動は海外需要等を背景に回復しつつある。こうした下、雇用情勢は有効求人倍率が高水準で推移するなど改善している。

〔先行き〕

先行きについては、熊本地震からの復旧・復興の動きが進み、各種政策効果や復興需要等を背景に、景気が回復していくことが期待される。ただし、人手不足感の高まり等により熊本県においては熊本地震の影響からの回復の動きに制約を及ぼす懸念があるほか、海外経済の不確実性など管内経済を下押しするリスクにも留意する必要がある。

	前回(29年4月判断)	今回(29年7月判断)	前回比較
個人消費	観光で一部に弱さが残るものの、回復しつつある	回復しつつある	
生産活動	回復しつつある	回復しつつある	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	28年度は減少見込み	29年度は増加見通し	
企業収益	28年度は増益見込み	29年度は減益見通し	
企業の景況感	「下降」超となっている	「上昇」「下降」同数となっている	
住宅建設	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	

管内各県の経済動向

	29年7月判断	前回比較
熊本県	平成28年(2016年)熊本地震の影響が一部に残るものの、緩やかに回復している	
大分県	緩やかに持ち直している	
宮崎県	緩やかに持ち直している	
鹿児島県	持ち直している	

※1. 29年7月判断は、前回4月判断以降、足下(7月末)の状況までを含めた期間で判断している。

※2. 各項目の詳細については、冊子「全国財務局管内経済情勢報告概要」参照。

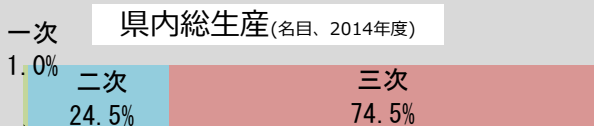
II. 管内食料品製造業の特徴的な動向について

1. 管内経済の特徴

- 当局管内の産業構造をみると、第一次産業の構成比が高く、なかでも鹿児島県や宮崎県において畜産業が盛ん。
- また、管内の製造品出荷額等は、第一次産業が盛んなことなどを背景に食料品製造業の構成比が高い。

産業構造

全国



農業0.8、林業0.1、水産業0.1、鉱業0.1

(出所：内閣府「県民経済計算」より当局作成)

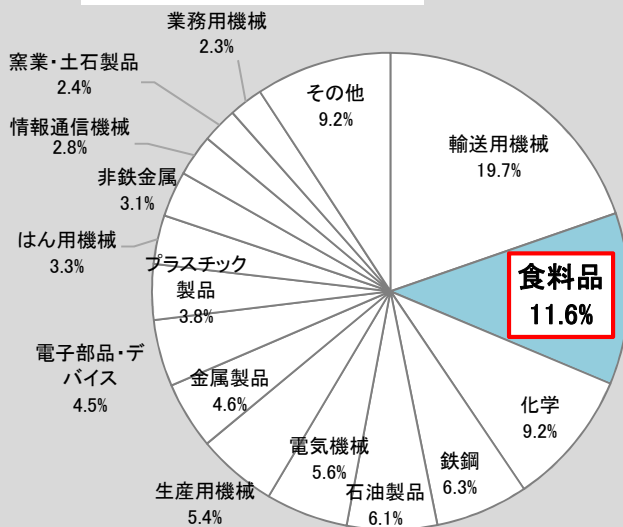
農業産出額(2015年)

加工農産物



(出所：農林水産省「生産農業所得統計」より当局作成)

製造品出荷額等(2014年)



※「食料品」製造業には、飲料・たばこ・飼料を含む
※従業者4人以上の事業所

(出所：経済産業省「工業統計調査」より当局作成)

管内



農業2.8、林業0.2、水産業0.4、鉱業0.3

(出所：内閣府「県民経済計算」より当局作成)

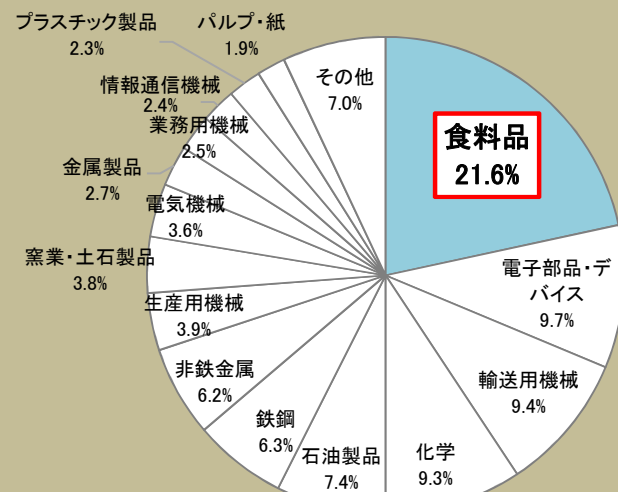
農業産出額(2015年)

加工農産物



(出所：農林水産省「生産農業所得統計」より当局作成)

製造品出荷額等(2014年)



※「食料品」製造業には、飲料・たばこ・飼料を含む
※従業者4人以上の事業所
※事業所数の都合上秘匿扱いの数値は「0」を仮置きし算出

(出所：経済産業省「工業統計調査」より当局作成)

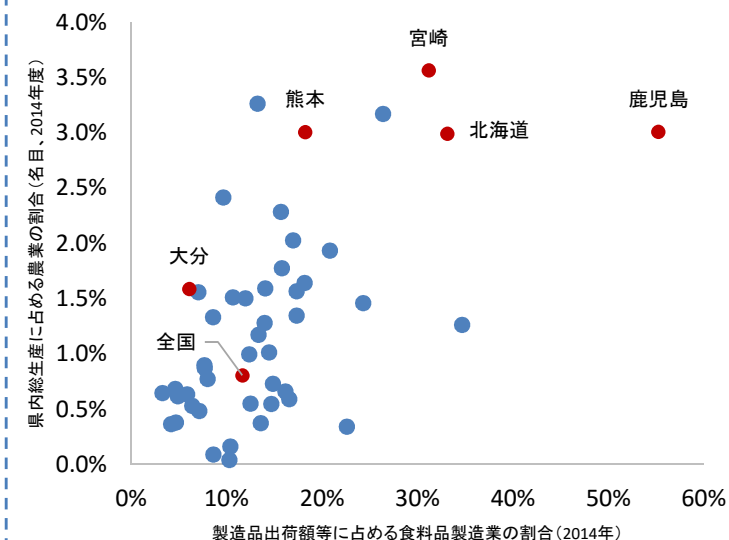
農業産出額構成比

(%)

	耕種	畜産					加工農産物	
		肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他		
全国	63.9	35.4	7.8	9.5	7.1	10.3	0.7	0.6
北海道	45.1	54.9	8.2	36.4	3.7	3.4	3.3	-
熊本	65.9	33.3	11.2	9.0	6.2	5.9	1.0	0.8
大分	63.9	35.3	11.3	6.9	7.1	10.0	0.1	0.9
宮崎	38.0	61.2	18.3	2.9	14.4	25.5	0.1	0.8
鹿児島	33.9	64.0	23.9	2.5	16.6	20.8	0.2	2.2

※全国よりも高い項目に網掛け (出所：農林水産省「生産農業所得統計」より当局作成)

食料品製造業製造品出荷額等と農業県内総生産

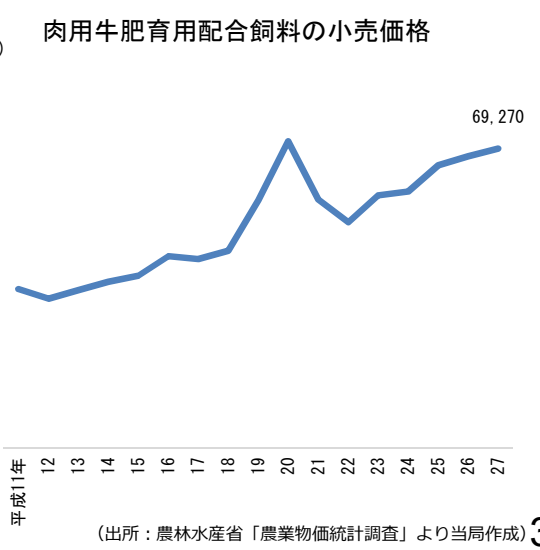
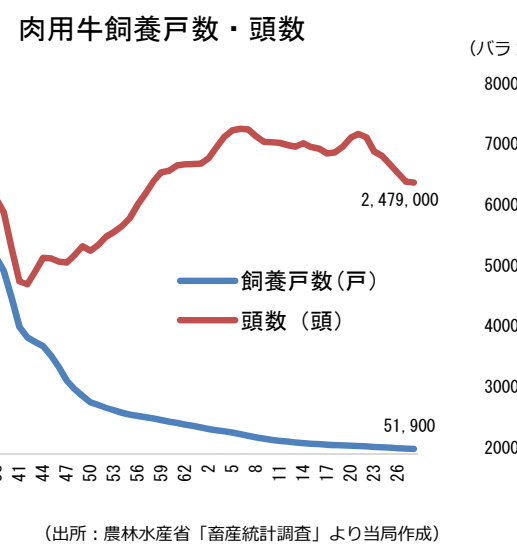
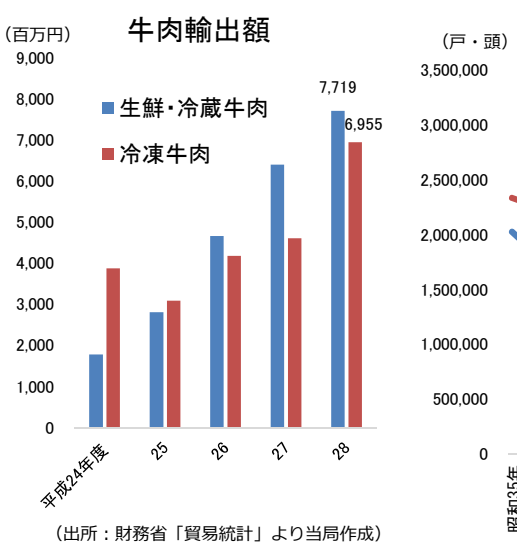
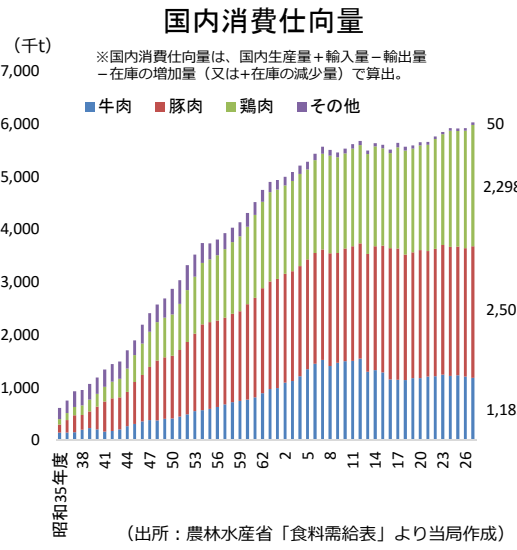
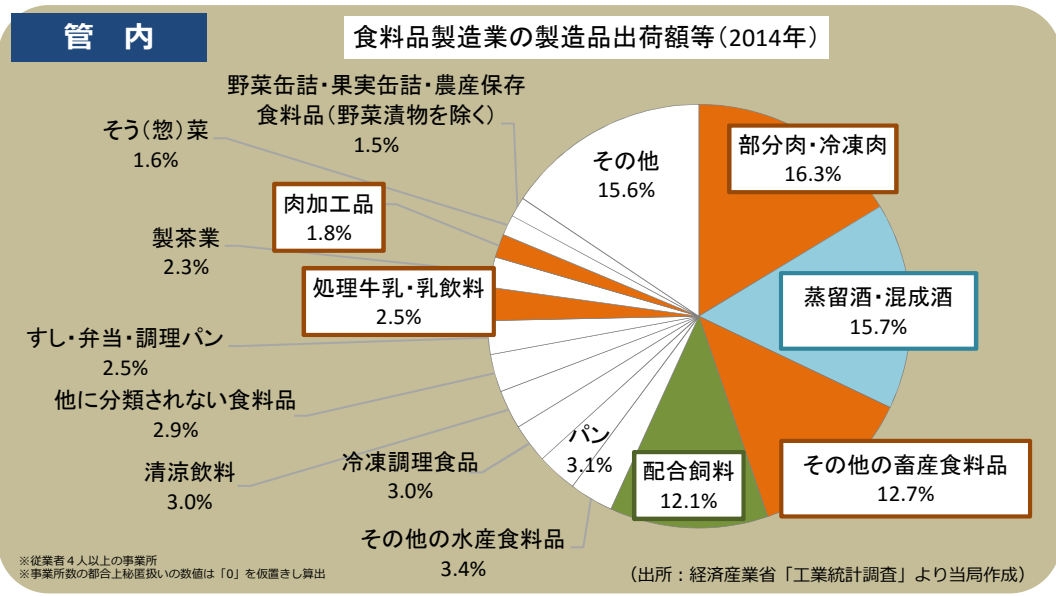
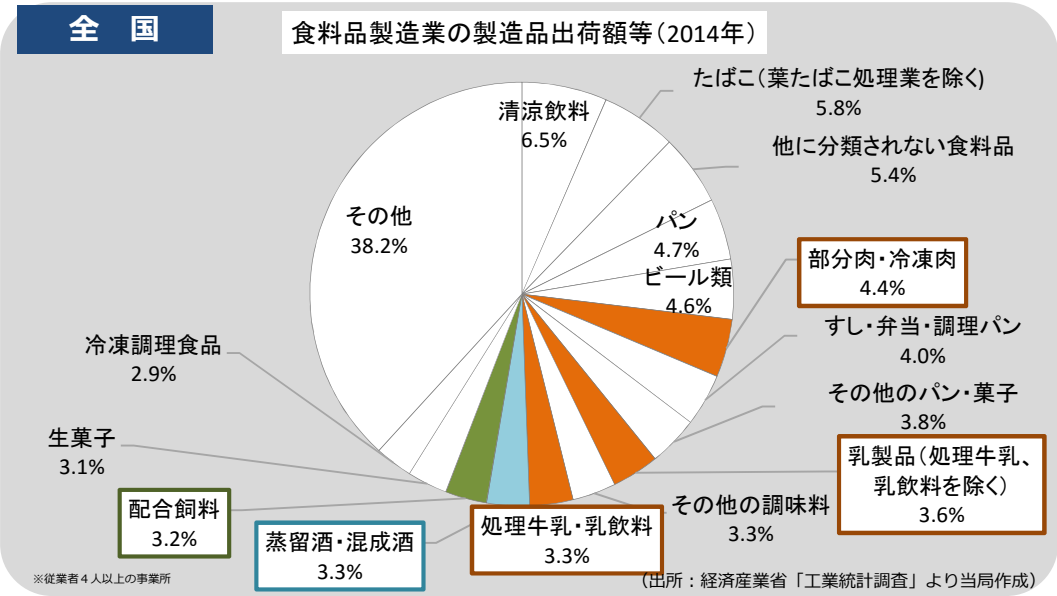


(出所：内閣府「県民経済計算」、経済産業省「工業統計調査」より当局作成)

II. 管内食料品製造業の特徴的な動向について

2. 食料品製造業の特徴

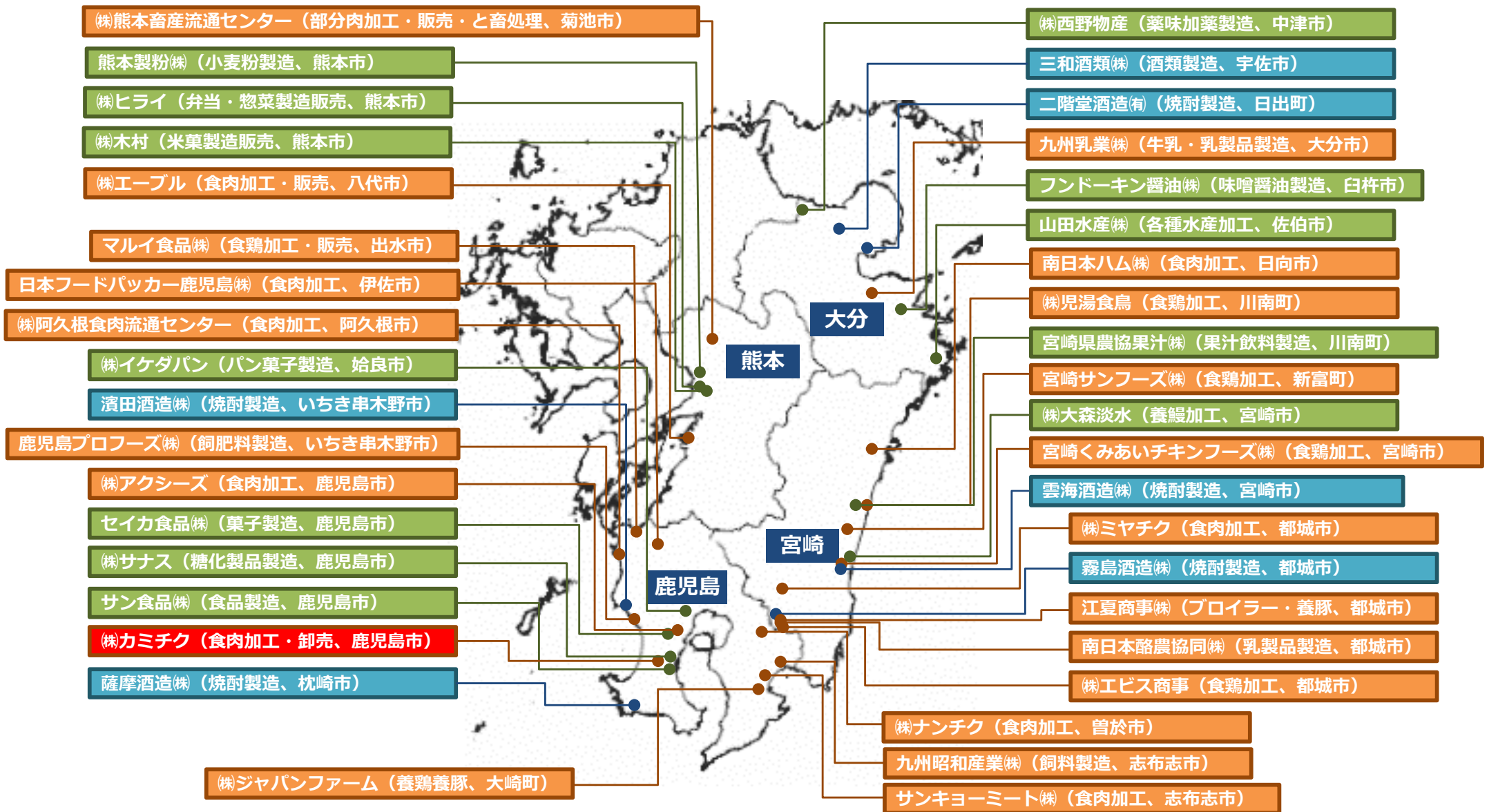
- 当局管内の食料品製造業の製造品出荷額等は、部分肉・冷凍肉が最も多く、次いで焼酎等の蒸留酒・混成酒となっている。また、家畜用等の配合飼料も多い。
- 食肉等の国内消費は堅調に推移しているほか、輸出も増加傾向にある。
- こうした中、畜産業においては、肉用牛の繁殖農家が高齢化・後継者不足により減少しているほか、飼料価格の高騰が肥育農家の経営課題となっている。



II. 管内食料品製造業の特徴的な動向について

参考：管内の主な地場の食料品製造企業等

- 畜産
- 焼酎
- その他



地図出所：国土地理院
<http://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>
 地理院タイルを加工して作成

(出所：(株)東京商工リサーチ「2015年度 第39回九州・沖縄の100億円企業ランキング」、(株)帝国データバンク「2015年 焼酎メーカー売上高ランキング」、各社ホームページより当局作成)

II. 管内食料品製造業の特徴的な動向について

3. 地域産業の活性化に向けた先進的な取組事例

- ◆ 高齢化・後継者不足による繁殖農家の減少や、飼料価格等の高騰による肥育農家の経営圧迫などの課題を解決するため、官民ファンド（A-FIVE）や金融機関、商社、食品製造会社等と連携し、エサ作りから繁殖→肥育→食肉加工→外食事業まで一貫体制により黒毛和牛等を提供する6次産業化に取り組んでいる事例。

▶ 企業概要

カミチクグループ（鹿児島市、中小企業）

・牛の繁殖・肥育、食肉加工処理業、食肉卸売業、外食事業等10社で構成

▶ 取組みの経緯と内容

- ・国内畜牛経営は、子牛や飼料価格の高騰などにより肥育農家の経営負担が増大。また繁殖農家も高齢化・後継者不足で廃業も散見。
- ・これら畜牛業界の課題解決のため、官民ファンド（株農林漁業成長産業化支援機構：A-FIVE）やパートナー企業（金融機関、商社、食品製造会社、飼料会社など）との連携による3つのプロジェクトを柱とした6次化事業体「(株)ビースマイルプロジェクト」を平成27年10月新設（28年4月事業開始）。
- ・出資は、A-FIVE10億円、サブファンド2.5億円、パートナー企業（6社）5億円、1次産業事業者（1社）7.5億円の総額約25億円。

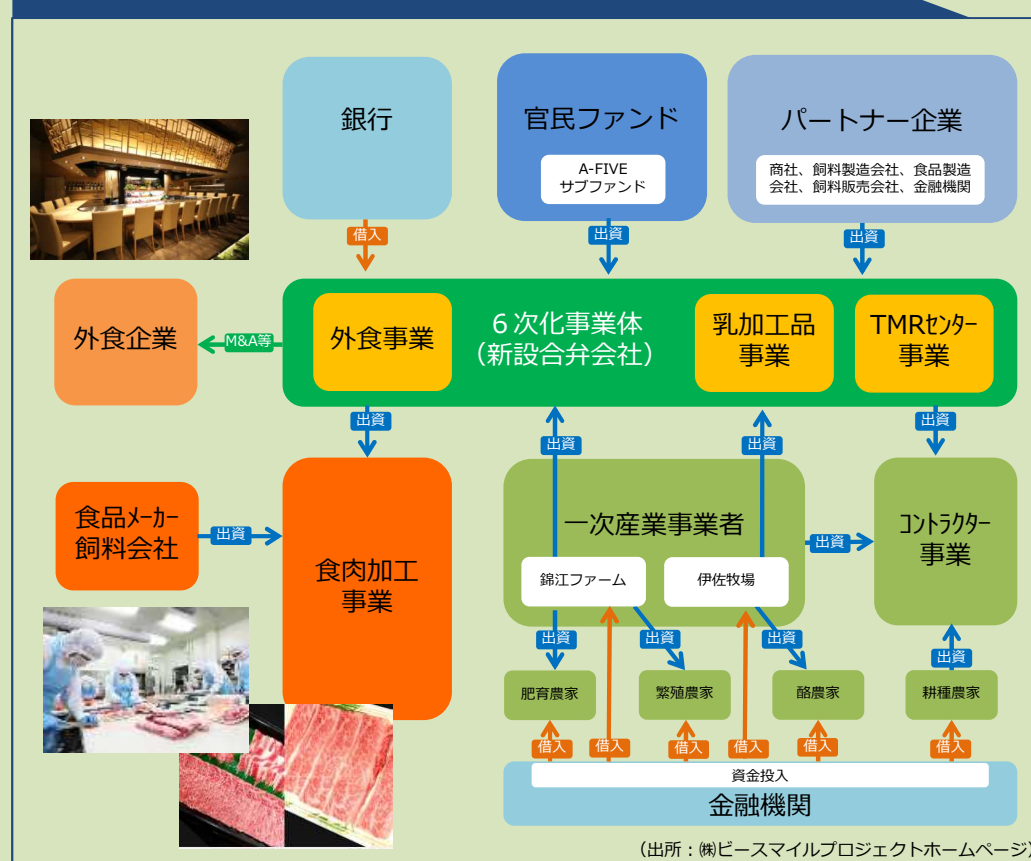
※A-FIVEは過去最高の出資額（29年7月現在）

★プロジェクトの3つの柱★

①外食事業	焼肉店等の出店を拡大。牛肉や乳製品の消費を増やす出口戦略。将来的には国内外で100店舗の展開を目標。
②食肉加工事業	輸出を視野にハラール認証も併せ持つ最新鋭の食肉センターの建設を計画。世界市場に向けた牛肉の供給を目指す。
③TMRセンター事業	地域耕種農家等と連携したTMR飼料事業を立ち上げ、国産農産物を利用した安価で安心な飼料の供給を目指す。耕作放棄地の減少や農業の再生・活性化に寄与。

⇒ 牛肉等の消費を増やしつつ、生産物の付加価値向上と一次産業事業者のコスト削減を図り、持続・発展可能な畜牛経営実現による地域の活性化を目指す

(株)ビースマイルプロジェクト（スキーム図）

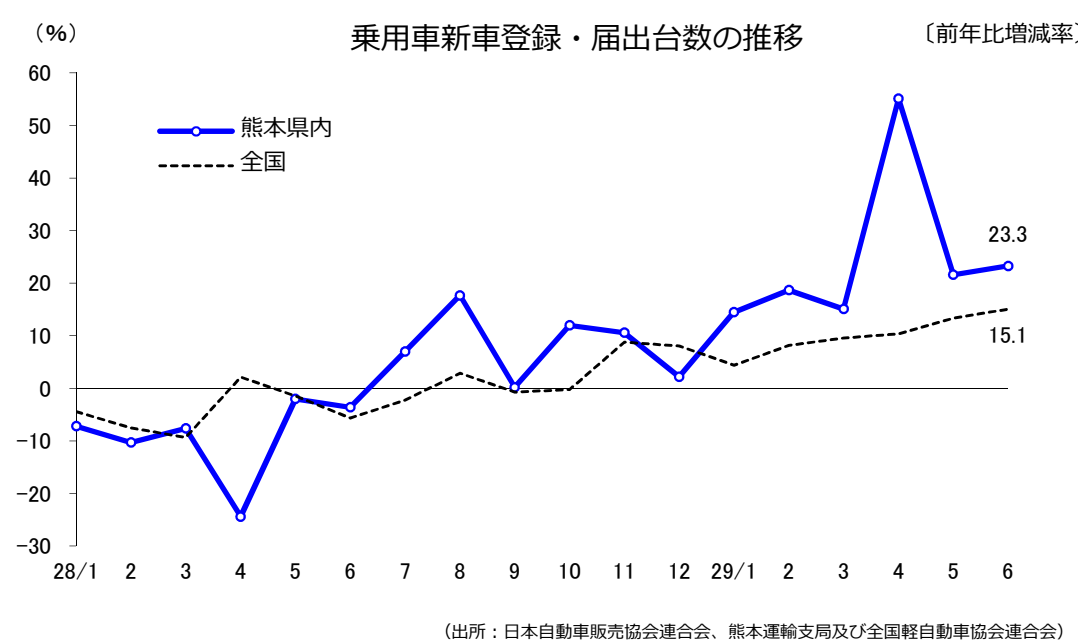
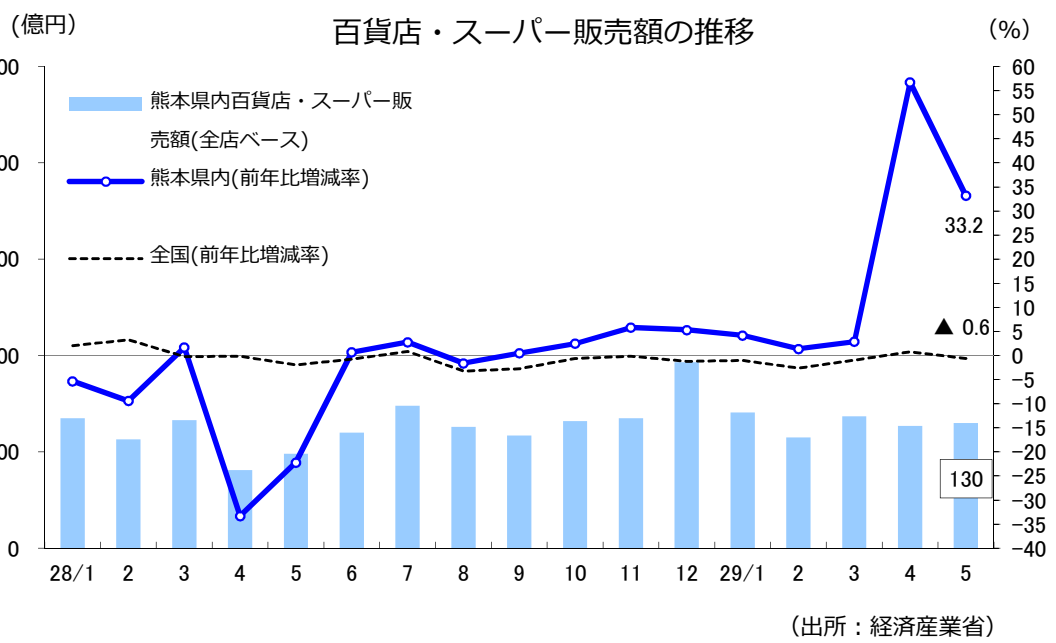


▶ 取組みの進捗状況・課題等

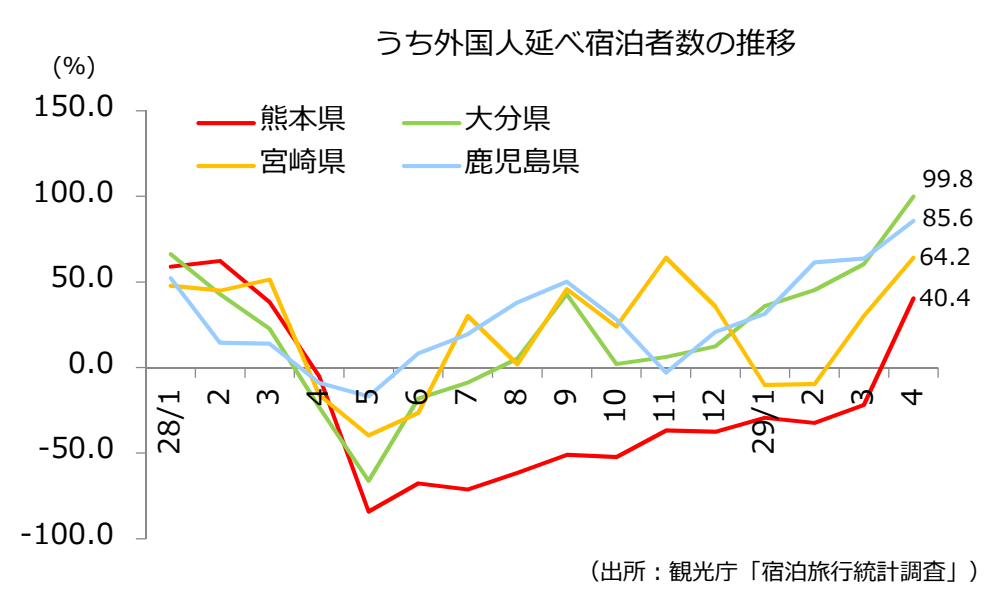
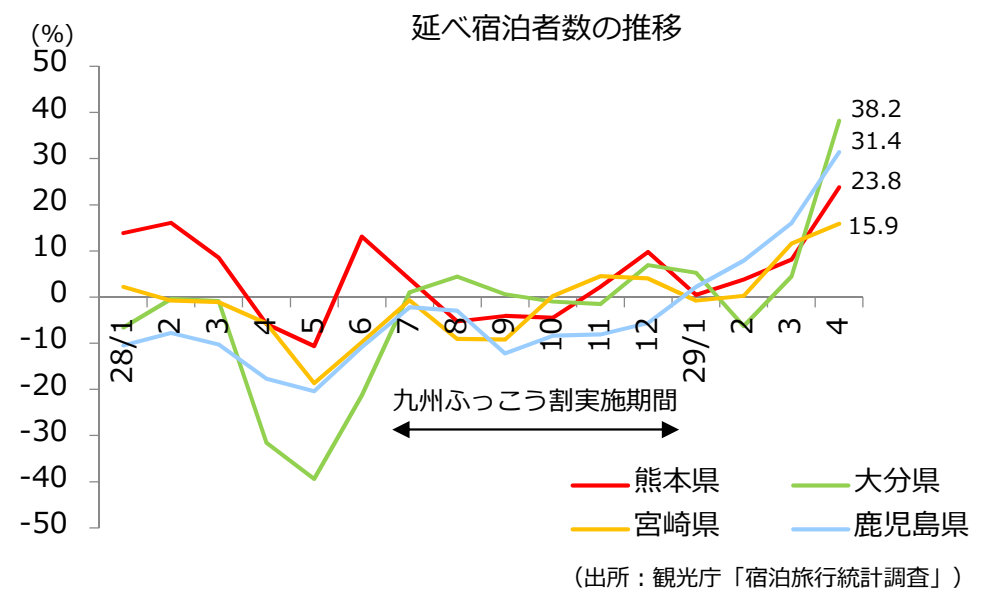
- ・外食事業は、人手不足等が出店の制約になっている状況を踏まえ、持続可能な事業展開のために出店計画期間を3年から5年に見直し。現在、首都圏を中心に23店舗出店。
- ・食肉加工事業やTMRセンター事業は、コスト削減を念頭に施設建設候補地の選定に向けて鋭意検討中。

III. 平成28年（2016年）熊本地震からの回復の状況について

1. 個人消費



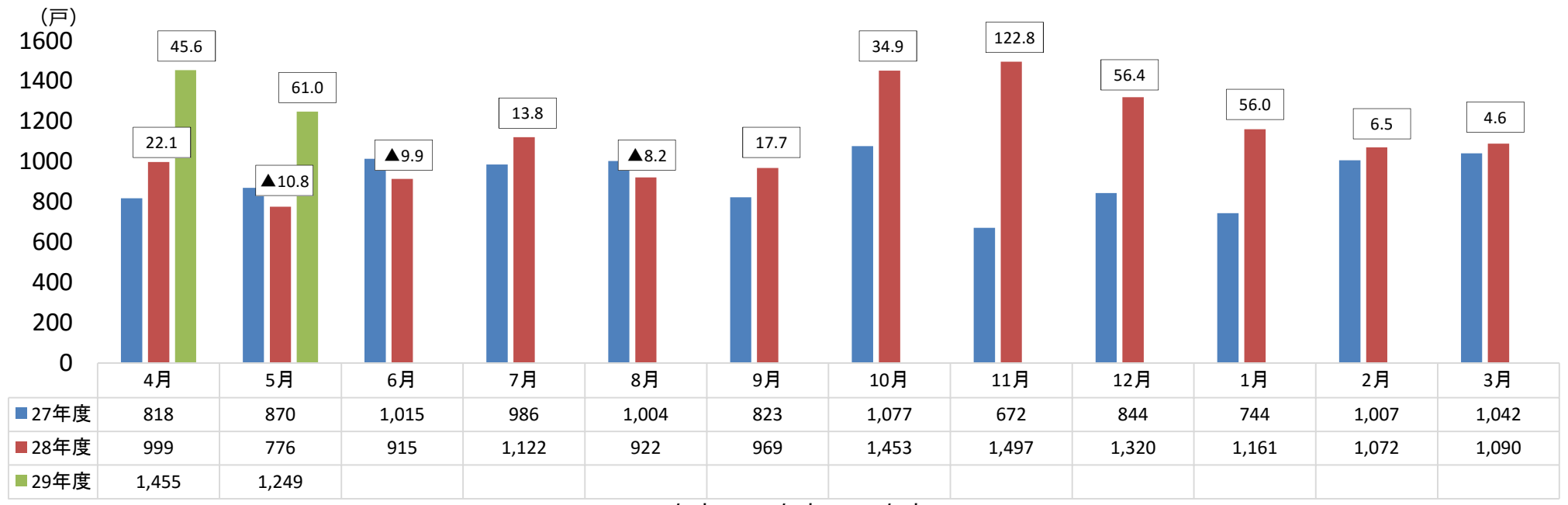
2. 観光



III. 平成28年（2016年）熊本地震からの回復の状況について

3. 住宅建設

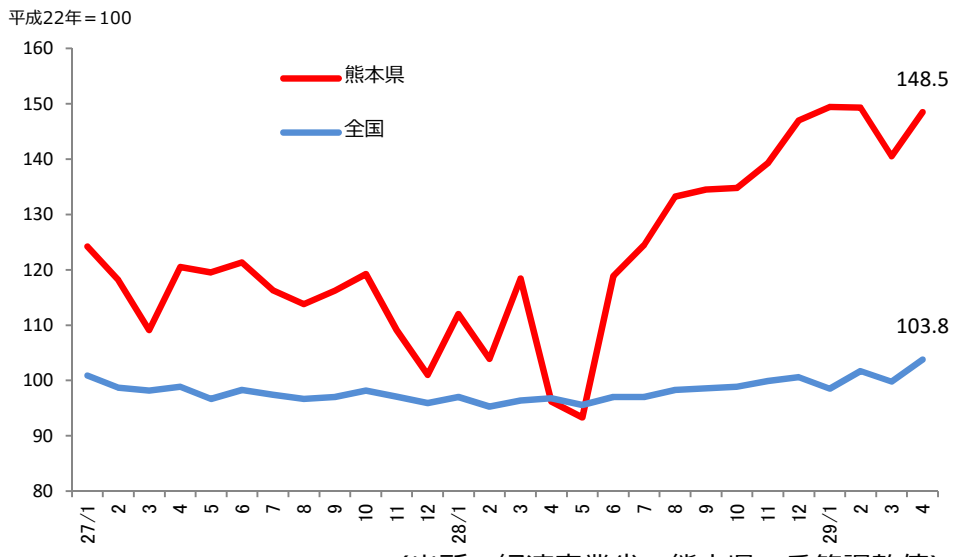
熊本県新設住宅着工戸数の推移（月別）



(注)縦棒グラフ上の数値は前年同月比。 (出所：国土交通省)

4. 生産活動

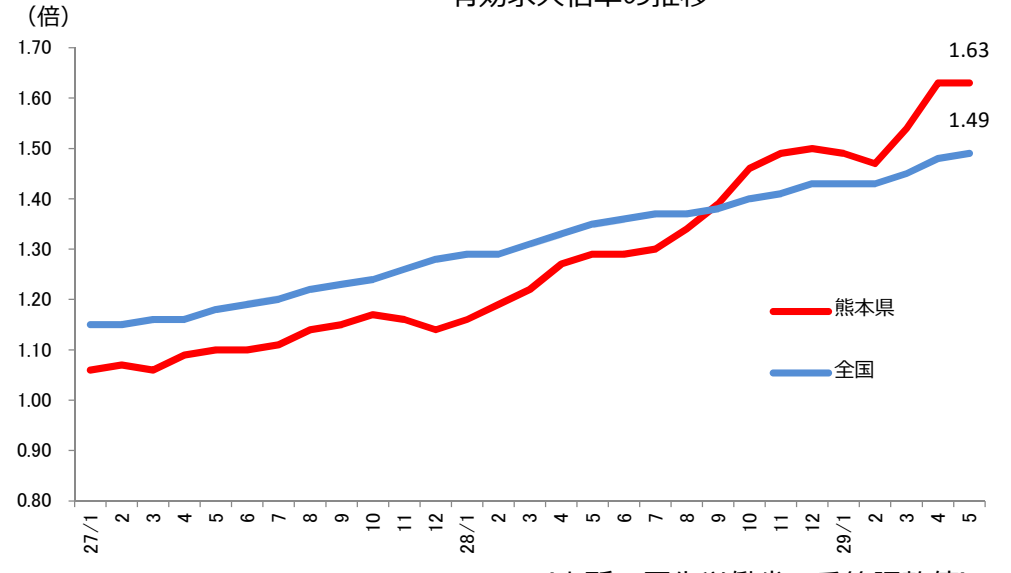
鉱工業生産指数の推移



(出所：経済産業省、熊本県、季節調整値)

5. 雇用情勢

有効求人倍率の推移



(出所：厚生労働省、季節調整値)